

敷地周辺図



デザイン基本方針 1 みなとみらい地区・北仲通北地区の群景の中でのスカイライン形成

・みなとみらい地区～関内地区を含めた周辺とのスカイラインの連続性を形成しつつ、みなとみらい地区から見た際に北仲通北地区の顔としての景観を形成します。

みなとみらい地区と呼応するスカイラインの形成

○みなとみらい21地区と呼応する水域景観の形成

(関内地区へのゲート性に配慮)

ランドマークタワーを中心とした水域景観の形成

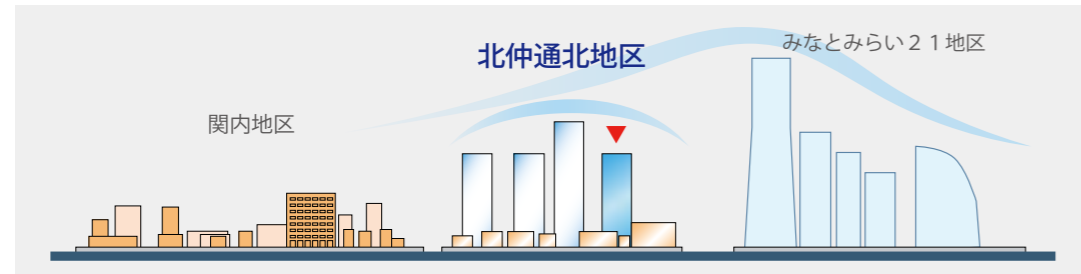
グランモールからのアイストップ

(群としてのまとまり)

(群としてのまとまり)

(北仲通北地区デザインガイドラインより抜粋)

- ・インナーハーバーにランドマークタワーを中心とした両翼に広がり、なだらかに下るスカイラインを形成します。
- ・ザ・タワー横浜北仲 (200m) を中心に、東側には B-1 地区 (150m)、横浜ベイタワー (アパホテル) (135m)、西側に本計画 (150m)、横浜市役所 (155m)、横浜アイランドタワー (119m) が並ぶ、緩やかに山型を描くスカイラインと群造形を形成します。

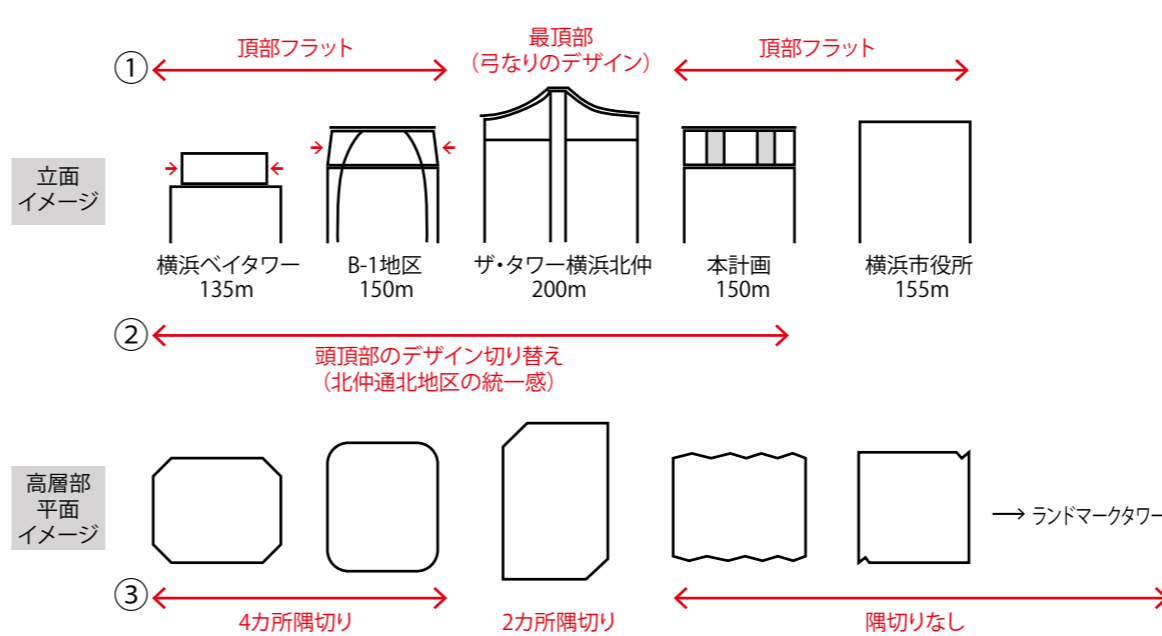


スカイラインの連続性・群造形の形成

・ガラスを基調とした高層棟のデザインが周辺との連続性・群造形を形成します。



建物形状に関する周辺建物との調和の考え方



① 群としての景観を意識し、最も高い中央のザ・タワー横浜北仲の弓なりの頂部デザインが際立つよう、150m級の周辺の建物に合わせて、頂部をフラットなデザインとしています。

② 北仲通北地区のまとまりとして、周辺建物同様に頭頂部のデザインの切り替えを行うことで、地区として統一感をもった景観デザインとします。

③ タワー部の平面形状は、横浜ベイタワー、B-1地区の4カ所隅切りの形状から、ザ・タワー横浜北仲では2カ所のみ隅切りとなり、本計画、横浜市役所では隅切りのない形状へと変化していくデザインとなっており、ランドマークタワーの隅切りのない形状とも連続性のある景観を創出します。

デザイン基本方針7 夜景の考え方

連続感のあるスカイラインの形成を行いながら、みなとみらい地区から見た際の景観シンボルとなる照明計画とします。

連続感のある光のスカイライン

- ・高層棟の頂部は光のスカイラインにおいても北仲通北地区の群としての景観を形成します。



街並みを彩る陰影のあるファサード

- ・低層部は列柱とレンガの壁のライトアップなど、間接光を主体とした落ち着いた柔らかな光による品格ある街路空間を創出します。



水際線の照明計画

- ・水際線沿いは隣接地区との連続性を考慮した照明計画とし、北仲通北地区として一体的な水際線沿いの光環境を計画します。
- ・広場はベンチと一体となったテーパーライトや樹木を照らすスポットライト、建物から漏れる光など、間接光を主体とした柔らかな光による夜間景観を創出します。



照明器具、電気設備について

手摺内蔵型の照明によって、連続感のある水際線空間を創出します。（A-1・2地区～B-2地区）





変更案

- 低層棟 頂部のデザイン
 - ・頂部の形状について、議会棟の頂部のデザインを意識し、アイコン的なデザインとします。
- 低層棟 栄本町線側の立面デザイン
 - ・4F と 10F の妻側面と道路側面の2面について、議会棟の連続した水平窓のデザインを意識し、縦フィンを取りやめ、ガラスの横基調のデザインとします。
 - ・妻側面と道路側面におけるデザインの切り替え(スパンドレル部と縦装飾)をなくし、2面に水平の連続性を確保しながらも、妻側面の顔が立つよう工夫したフレームデザインとします。

2 地区施設(広場)とこれに面する建築物(1階部分)のゾーニングについて

・第69回横浜市都市美審議会にて助言のあった、地区施設(広場)とこれに面する建築物(1階部分)のゾーニングについて、内外空間の利用想定を整理しました。

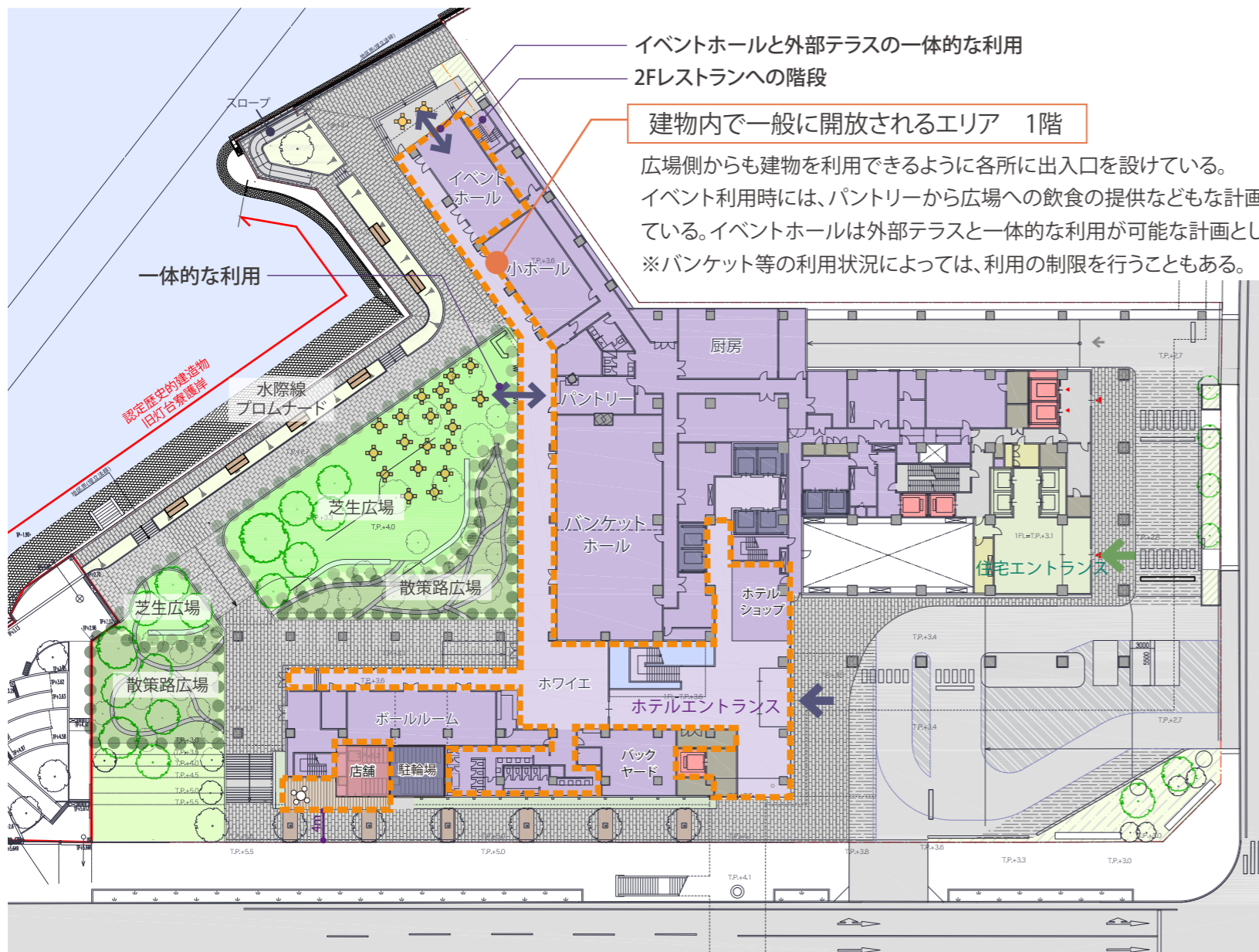
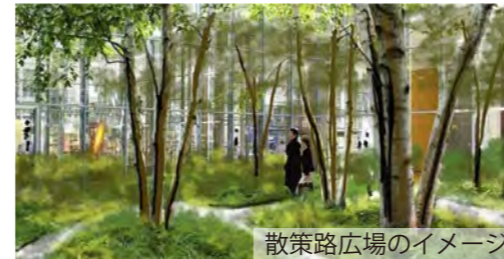
オープンスペース・広場の利用について

・海側のオープンスペースは、「芝生広場」と「散策路広場」と「水際線プロムナード」にて構成されます。

・**芝生広場** 水際線プロムナードと連続的につながり、開放的な設えとしますが、ガーデンウェディングやその他イベント等で広場を利用する場合は、都度事前に横浜市と協議し、一時占用することを想定します。なお一時占用の際は、占用スペースを明確にしながらも、景観に配慮した区画の仕方を検討します。

・**散策路広場** 落ち着いたある緑陰空間として誰でも静かに憩うことができ、常時散策や通行が可能な設えとします。

・**水際線プロムナード** 広場と明確なゾーニングを行うことで、常時通行可能な計画とし、隣接する広場や公園と連続した水辺空間とします。



建物内の利用について

・建物と広場やプロムナードを一体的に利用できるように、1階部分は外部テラスと連携が可能なイベントホールやパントリーから飲食の提供が可能な計画とします。

・2階ロビーラウンジやレストランは宿泊者に限らず利用可能であり、ランチやアフタヌーンティー、ディナー等幅広い利用者の受け入れを想定しています。



ホワイエ一般開放時のイメージ

アフタヌーンティーのイメージ

ホテルランチのイメージ

